

ちよつとしい話

～ 平 等 ～

21年5月1日

平等とは一体何を以って平等となすのでしょうか。人間は生まれれば必ず死にます。これ即ち、平等なり。経の願文には「願ねが以わ此こ功く徳とく、平へい等とう施し一いつ切き、云々」とあります。人間として生まれ死ぬまでの人生は平等でしょうか。国は給付金のように同額を全ての国民に支払うのを平等としています。しかしながら、我々は個々に於あいて同一の能力の物はありません。知力・体力（肉体）・気力・財力・等々は既に生まれた時から差がついています。と同時に生育過程にも様々な差がしょうじます。それらを踏ふまえて平等とは何を根拠こんきよにすれば良いのでしょうか。石川啄木たくぼくが「働けど働けど、なお我が暮らし楽にならざり、じっと手を見る」と書いていたように覚えています。彼は寺の息子に生まれながら文筆に生きるも26歳で逝去せいきよしてしまった不幸な人でした。彼も不公平な世の中と死んでいった事でしょう。現在多くの受験者が入学試験の合格祈願に天神様へ詣でます。天神様が平等という事で各自に10%の力を援助したとします。すでに持っている力に差があれば同じ10%では不合格になってしまうでしょう。そうすると神は我を見捨てたかという事になるわけです。私は勿論努力はしなくてははいけませんしよせんが所詮能力には差があつてしかるべきだと思ひます。考えてみてください足の遅い人が祈願をすれば早く走れる様になれるものではありません。世の中、何事に於いても向き不向きがあります。紙一重になれば、天才よりも努力の人が勝ともいわれています。器用な人もいれば不器用の人も見えます。努力する姿を見て判断を下す必要があります。人間のイキザマは様々です。複雑だからこそ面白くもあるし、悲しくもあります。私が世間様に申し上げたいのは学門だけで人間としての価値判断をしてはいけません。御存じの様に人間は知的能力が全てではありません。色々考えてみますと益々平等とは分け分ならず、神も佛も無いものかと思われる方が多いでしょう。世の中全てに平等を求めるならば能力の低いものにレベルを合わせる事になります。所詮レベルの低い人は高い人に合わせるは無理な事しよせんです。そうなれば国家の浮沈は沈む一方です。唯、神佛は善悪については平等にプラス、マイナスを与えておられます。このプラス、マイナスが次の子孫に福德として加味されるのです。平等とは一般的には不平等の中に存在するが、平等に夢や希望を満たしてほしいと思う心の中にあると思ひます。反面神佛は全てに平等ですから有難いと思ひます。生活に不公平を感じるも真面目まじめに行動し雨風をしのぐ家があれば、即ち、衣食住に事たりればそれで良いではありませんか。不満を抱き続ける中に諸事、実りはありませんから。彬彬

善壽界善入院油掛地藏尊